

さくらニュー

桜ヶ丘病院広報誌



さくらニュース



「栄養教室」を継続して行っています



「当たり前」って何??



【定期化するかも】認知症・思いつき日記

2021



最新ニュースもチェック▼
桜ヶ丘病院スタッフブログ
<http://e-sakurahp.com/staffblog/>



桜ヶ丘病院
Sakuragaoka Hospital



大谷ののとクリスマスツツジ（石川県珠洲市）



令和3年 春号の表紙

～大谷ののとキリシマツツジ(石川県指定天然記念物)平成18年4月7日指定～

珠洲市大谷町57字33甲地

のとの庭先で数百年にわたって、人知れず大切に育てられてきた深紅の花「のとキリシマツツジ」が、世の注目を集め始めるきっかけとなった、第一回「のとキリシマツツジフェスティバル」が開催されたのは2005(平成17)年のこと。どれだけ人が来てくれるかわからない状況下で、三日間でのべ1万人以上が来場。その後も毎年多くの来場者が集まるイベントとなっています。

その反響の大きさが、平成18年二人のツツジの研究者が能登を訪れるきっかけとなり、限られた公園などにしかないと思われていた「キリシマツツジ」が、能登の農家の裏庭に大きな1本があるといったスタイルで多数存在、能登は樹齢100年以上の古木が地域に300株以上ある日本一(ということは世界一)の集積地であることが、専門家の目を通して世に知られることになりました。

その「のとキリシマツツジ」、九州霧島山に自生するミヤマキリシマから生まれたキリシマツツジの原木が正保年間(1644～1648)に大阪へ運ばれ「取り木」の手法で5株に分けられ、1656年(明暦2年)2本は京都御所に、3本は江戸染井(現東京都豊島区)の当時有名だった園芸家「伊藤伊兵衛」のもとで増やされた、いわゆる「江戸キリシマ」とDNA調査の結果、同一であることがわかり、能登に残る江戸キリシマの品種を、地域で「のとキリシマツツジ」と呼ぶようになりました。

京都と江戸にあったオリジナルの「本霧島」は残念ながら現存していませんが、能登には樹齢100年以上の古木が500本以上存在、中には樹齢300年以上のものもあり、石川県指定天然記念物「大谷ののとキリシマツツジ」は幕末の1864年(元治元年)宇出津の山間部にあった4株を海路で大谷まで運び、二人が並んで歩けぬ山道を、4人で一日一株ずつ、交替の2人を含め6人がかりで運び上げたものとか。(ちなみに車が通れる道があったのは108年後1972年(昭和42年)のこと)

当時の大地主は時代の機微を察し東京に移住、当時番頭であった現当主の先祖が屋敷を買うことになり、その屋敷にふさわしい「のとキリシマツツジ」を手に入れたものの、いざ植えるとなると周りを気にして人目につかない裏庭に植えたとか…。切り詰めた暮らしばかりの戦争が終わって「いよいよ花の時代が来たわいや、おまえに管理を任す。」と、樹を託された大正12年生まれの前代当主は、雪に潰されスイレンのように広がっていた枝の姿勢を十数年かけ立て直し、美しく咲くように手入れしたものの、姿勢を直したことで樹は雪に弱くなり、樹を守るため大雪の晩にはコタツで暖をとりながら目覚まし時計で起き、夜中でも雪落としをするなど言われぬ苦労を重ね、2015年12月に92歳で亡くなりました。

石川県指定天然記念物である、この樹はご子息や地元の愛好家によって大切に守られており、ゴールデンウィーク前後の開花期にはオープンガーデンとして開放されています(新型コロナウイルス感染症の影響でオープンガーデンなどの公開が、中止となる場合がありますので事前にご確認下さい)。

半島先端の急峻な山道を辿らなければいけません、事情が許すようであればご覧いただきたいものです。

参考:「のとキリシマツツジの郷 | 能登の春を彩る赤い花」(<http://notokirishima.com/>)

「広報のと」No.64 2010.6より

(文責:いしかわ観光特使 藪 一明)



【定期化するかも】
認知症・思いつき日記

「見えるものに反応する!？」



1. 今年もあの日がやってきました…
うちのヨメは完全にお返し狙いですが…



2. 一人では買い物には行けないのですが、
それなりに買い物というのは楽しみなようで…



3. 事前に欲しいものを把握しておくことは有効です。
(目に入ったものに反応して必要なものを買忘れなんてことがよくあります。)
それに、アルツハイマー型認知症なんかだと取り繕いは上手です。

TOPIC OF mental health

記事: コーブランドセンター認定WRAP®ファシリテーター
(一社)日本精神科看護協会 精神科認定看護師 藪 一明



「当たり前」って何??

TOPIC OF anger management

新年度がスタートしました。皆さんいかがお過ごしですか？
今日は「当たり前」という言葉の意味について考えていきたいと思います。

「そんなの当たり前でしょ？」誰しも怒った時に、一度は使ったことのあるフレーズではないでしょうか？でも、「当たり前」って何でしょう？常識？一般的？自然？普通？

「そんなの当たり前」というフレーズから想起していくと、自分の価値観の中央に存在するものなのだと思います。だから周囲の人にも、当然知ってもらいたいものとして認識しているわけです。しかし、この「当たり前」は知識や経験、文化、時代などによって変化します。一番わかりやすい例は、新型コロナウイルスによる様々な生活様式の変化ではないでしょうか。新型コロナウイルスが蔓延する前までは、基本的に生活するうえでマスクをつけないことが「当たり前」でした。しかし今では、どこに行くにもマスクをすることが「当たり前」になっています。新型コロナウイルスの出現によって「当たり前」が大きく変化したわけです。

では、この「当たり前」を他人や社会に強いることは正しい行動でしょうか？自分や周囲へも感染拡大させないためには正しい判断だと思いますが、実は100%正しいとも言いきれません。実は障がいや疾患などによって感覚過敏を引き起こし、マスクをしたくてもできない方々も存在するからです。最近ではマスクができないことを意思表示カードや缶バッジなどで表示している方もいらっしゃいます。社会的な「当たり前」を周囲に押し付ける人たちから自身の身を守るため、家族を守るためにこうしたグッズが当事者より発案された経緯があります。自身や家族の感染リスクを冒してまでマスクをしない方々にも何かしら理由が存在するケースがあるわけです。この部分を想起した上で行動できるかどうかで、自分でできる行動の幅は大きく変化するのではないのでしょうか？もちろん、マスクしないことを推奨しているわけではありません。感染防護策目的の手段としてマスクは有用だと思いますが、自身の安全を守る手段はそれだけではありません。目的を明確に意識することがとても重要です。目的がマスクをさせることにすり替わらないように、視野を広げていけると良いと思います。

自身の「当たり前」を周囲に誇示して正当化するよりも前に、その行動の背景に目を向けられると、無駄なイライラや衝突が格段に減るのではないかと思います。自分の正義の反対側には誰かの正義が隠れているかもしれません。

自分の感情に責任をもって行動していきたいですね。



記事：看護師、CVPPPトレーナー
一般社団法人日本アンガーマネジメント協会認定アンガーマネジメントファシリテーター™
袋井 修平

さくらのニュース

★TOPIC.1★

病院機能評価広報誌「Improve」に掲載されました。

前号でもお知らせしましたが、病院機能評価機構が発行する広報誌である認定病院の改善事例紹介シリーズ「Improve Vol.21」に、当病院の取り組みが掲載されました。

主に、院内研修という形での職員教育の取り組みと、病院機能評価を受審した感想が掲載され、あらためて院内の取り組みについて振り返ることができました。

また、病院機能評価機構がこのリーフレットを全国に紹介して頂けることになり、職員全員が自信を持って働ける環境になったとともに、今後も全国の病院に対して恥じぬようにこの評価を受けたことに満足することなく、さらなるスキルアップを求め日々研鑽していきたいと思います。

(事務部 米田明史)



★TOPIC.2★

面会ブースを設置しました。

新型コロナウイルス感染症の猛威から、早いもので1年が経ちました。

マスクの着用やアクリル板越しの食事など、生活の様々なものが変化した1年だったと思います。当病院でも入院されている患者さんへの感染防止のため

めに、面会を全面的に禁止させてもらいました。しかし入院されている患者さんにとって、ご家族との交流は心の支えになるとともに、入院生活の中での刺激になり、とても大切なことと考え、何とか直接面会が出来るようにならないかと病院内で検討を続けてきました。

そして病院内各部署からの様々な協力もあり、1階ロビーの喫茶コーナーを提供してもらい、仮設ではあります面会ブースを設置することが出来ました。県内の感染状況が落ち着いてきた今年の1月12日より、面会ブースの準備が整い使用することができるようになり、今も継続中のリモートとは違い、直接お互いの顔を見ながら会話ができる面会が、半年ぶりに再開されています。

数か月ぶりのご家族との面会で患者さんには笑顔が見られ、私たちスタッフも心が癒されています。

面会ブースでの面会に際しては、アクリル板越しでの体への接触ができなかったり、一緒におやつを食べるなどの行為ができないなど、まだまだ細かな制約はありますが、新しい面会の形として、今後も続けていきたいと思っています。

ただし感染状況などによっては、面会ブースでの面会が中止となる場合もありますので、ご利用の際には、必ず患者さんの入院されている病棟にお問い合わせください。

(感染対策チーム 野田貴史)



「栄養教室」を継続して行っています。

「栄養教室」で

疾患予防・健康維持！

栄養教室は、生活習慣改善への意識付けや習慣化を促し、患者さんの生活習慣病やその他疾患の予防、健康維持を目的に、平成28年より毎月1回、その月の担当病棟にて行っております。

今年度は「肥満・生活習慣病」「便秘予防と水分補給」「嚥下」をテーマに実施しています。クイズや体操で頭や体を動かしたり、活発な質問や意見交換があったりと、毎回患者さんと楽しく勉強することができています。

今後も、栄養教室を通して患者さんの疾患予防・健康維持に取り組んでいきたいと思っております。



(栄養部 谷口真美)

病院理念

精神科専門病院として、心のケアから高齢者医療にいたるまで、心のこもった医療を行います。

基本方針

- 1) 優れたスタッフを育成し、質の高い医療を提供します。
- 2) 安全性、信頼性を常に考え、十分な説明と理解と同意に基づいて治療を行います。
- 3) 地域医療の発展に貢献する病院を目指します。

患者さんの権利

- 1) あなたは、良質な医療を受ける権利を持っています。
- 2) あなたは、医師、病院を自由に選択する権利を持っています。
- 3) あなたは、十分な説明を受けた後に、治療を受け入れるか、または拒否する権利を持っています。
- 4) あなたは、ご自身の情報を得る権利を持っています。
- 5) あなたは、ご自身の情報について守られる権利を持っています。
- 6) あなたは、健康教育を受ける権利を持っています。

※なお、皆さんは権利とともに義務も発生いたします。

入院生活を送っていただくうえでは必ず病院規則はお守り下さい。



《外来診察スケジュール》

診療時間	診療科目	月	火	水	木	金	土	
午前 (9:00~12:00)	精神科	一診	岩崎	眞舘	林	南野	天野	南野
		二診			眞舘	大平		大嶋
		三診						大平
	内科		常勤医			常勤医		
	午後 (13:30~17:00)	精神科	一診	大嶋	大平	天野	岩崎	林
			二診					
内科								

《外来受付時間》

○ 初診 午前 8:30~11:00 午後 13:00~16:00 ◎ 再診 午前 8:30~11:30 午後 13:00~16:30

・初診の場合は、待ち時間短縮のため、必ず前日(土・日・祝日を除く)までに「地域連携室」にご連絡下さい。

医療法人社団浅ノ川



標榜診療科 精神科 内科 歯科

●精神科デイケア・デイナイトケア 「さくらんぼ」
●グループホーム 「プリムラ」「ハイツ北金沢」

TEL:076-258-1454

〒920-3112 石川県金沢市観法寺町へ174番地